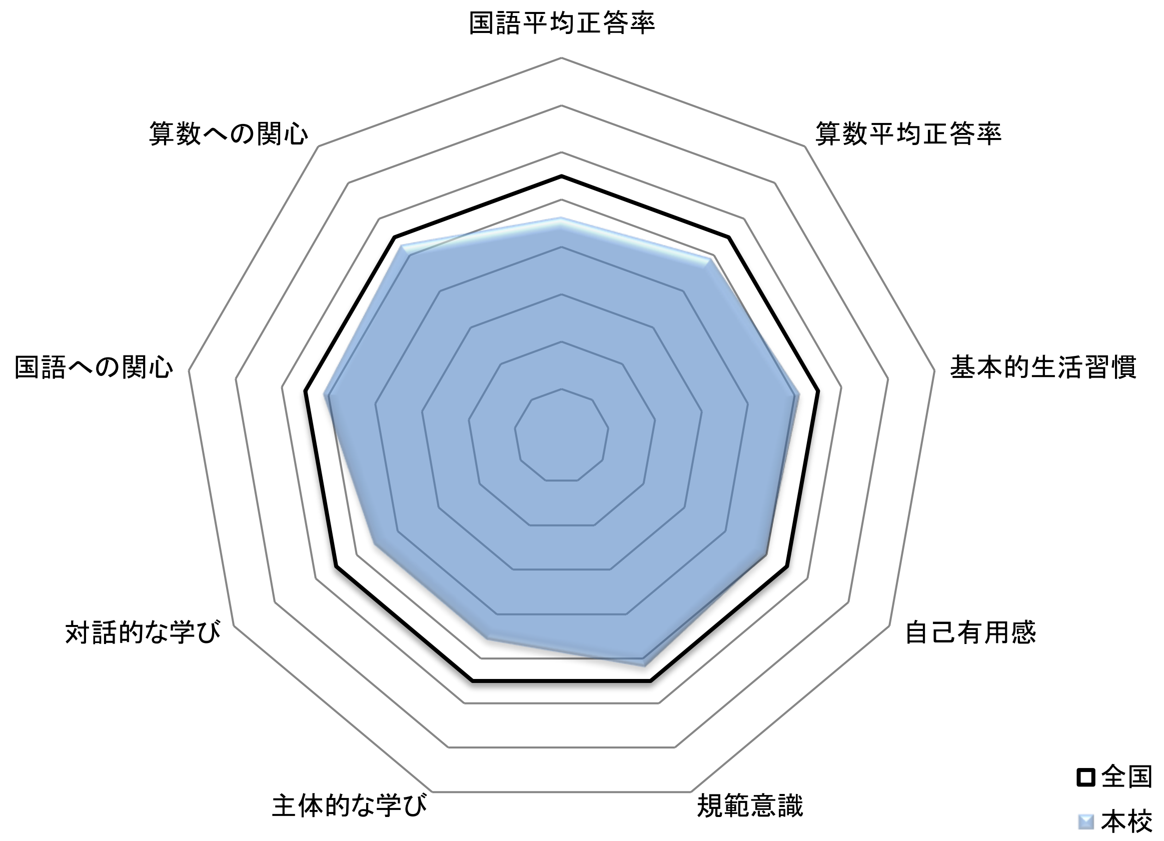
令和６年度 全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（小学校）　　江戸川区立篠崎第三小学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

国語、算数ともに全国平均正答率を下回った。両教科とも記述式の問題の回答率が低く、とりわけ無回答率が高い。

日常の授業を見ていると、長い文章を読んだり書いたりすることに抵抗感を抱いている児童が多いことがうかがえる。文章題を解く機会を設け、粘り強く取り組ませていきたい。

また江戸川区立学校で今年度より取り組んでいる小学校４年生以上対象の新聞記事を活用したワークシート教材「よむYOMUワークシート」の効果的な活用を模索していく。

算数に関しては、苦手単元の分析を行い、関連のある学年での学習の際、復習の時間をしっかり確保するとともに、放課後の補習や朝学習で基礎の徹底を促していく。

《授業改善のポイント》

・授業の導入の工夫、ICTの活用、スモールステップで取り組ませることで、「分かった、できた、もっと知りたい。」という意識をもたせる。
・自分の考えをもち、仲間と対話しながら共に課題解決に取り組む学習、相手の考えを知ることで自分の考えを広げたり深めたりする学習を実現すべく授業改善を行っていく。
・「話すこと、書くこと」より「聞くこと」が好きな児童が多いのが特徴である。校内研究ではその実態をふまえ、「積極的な聞き手を育てる学習の工夫」を研究主題として、国語科の研究に取り組んでいく。
・昨年度、東京ベーシックドリル診断テストを学期に2回取り組み、正答率や苦手単元の分析を行った。長期的に見ると正答率が上がっており、取組の成果は認められるため、引き続き実施していく。繰り返し取り組むことの大切さを伝えるとともに、実際にできるようになることでさらに繰り返しの大切さを実感させていく。
・苦手単元を教員間で分析・共有し、授業で復習の時間を多く確保したり、朝学習や補習の際プリントやミライシードで取り組んだりと、授業以外でも苦手単元に取り組む時間を増やす。

《チャートの特徴》

全国平均と本校の調査結果を比較すると、バランスは良いものの、全ての項目において肯定的回答が低い。特に、教科への関心をみる「国語の勉強は好きですか。」「算数の勉強は好きですか。」という質問に対する肯定的回答が低い。「授業で学習したことが将来社会へでた時に役に立つと思いますか。」の質問に対しては肯定的な回答が多いことから、必要だとは思っているが好きとは言えない児童が多いことが分かる。そこで、導入の工夫、ICTの活用、スモールステップで取り組むことを意識し、「分かった、できた、もっと知りたい、という意識」をもたせることに注力していく。

自己有用感、規範意識、基本的生活習慣については、学級経営を基盤としつつ組織としても取り組むため、児童に徹底的に寄り添う姿勢を全教職員で示しながら、保護者との連携を図り、意識の向上をめざす。

《家庭・地域への働きかけ》

学期に1回実施の生活リズムカードや家庭学習週間で、家庭に協力を依頼しているが、睡眠時間が十分とは言えない家庭が散見される。それは、学習に集中して取り組めないことにつながるため、家庭への啓発に努めていく。

また、児童の学習時間を「学年×１０分以上」をめあてとしているが、６年生で60分以上学習している児童が49％と、都や全国に比べ明らかに少ないことが分かる。家庭学習週間終了後に分析資料を配布するなどして実態を伝え、改善に向けた啓発活動を実施していく。